

◆ ジャン インイーさん (中国 2016 年度研修生)

大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業（安藤プログラム）を終えて

大阪から上海に戻って約2か月が経ち、私生活と仕事は日常に戻りましたが、大阪での生活や体験から大きな影響を受け、私自身の考え方や認識は変化しました。研修先の榊竹中工務店で学んだように、私が所属する上海市建工設計研究院での業務では、会社の経営や発展に関わる全ての側面について、より注意を払うようになりました。

日本で長年培われてきた、EPC（Engineering（設計）、Procurement（調達）、Construction（建設））やPPP（Public-Private Partnership（公民連携））プロジェクトは、中国では始まったばかりです。私たちにはより優れた事業全体の管理能力や細部設計等へのスキルが求められており、近い将来、榊竹中工務店で学んだことはよい手本になることでしょう。

社員の交流を目的とし特別に設けられた「Panda Village」という会議の場で、私は幸運にも、安藤忠雄先生の作品を視察した時の感動や、日本人の謙虚で友好的かつ根気強い国民性、また、資源全てを最大限に有効利用することなど、日本での経験やそこで感じたことについて、同僚に話す機会を得ました。参加した若手設計者は、日本の設計の高度で細やかな仕事ぶりに感心し、多岐にわたる質問がありました。また全く異なる意見も多く飛び出すなど、会議は興味深いものとなりました。

今後、設計を行う際は、心を落ち着かせ、空間とその利用者の気持ちを思い浮かべられるようにしたいと思います。いつか安藤先生のように、人の心を動かす建築を設計できればと思っています。



「Panda Village」会議の様子



「Panda Village」の活動の一環



仕事風景